新造フェリー「せっつ」に乗船

2020.5.7　池田良穂

新型コロナウィルス禍で、世界のクルーズは止まり、国内のフェリーの乗客は激減しています。1 人に 10 万円という給付金の使い道はクルーズとフェリーと決めていますが、その給付前に少し先走って話題の新造船「せっつ」に乗船してきました。

5 月 6 日の神戸発の阪九フェリーの「せっつ」を予約したのは、その前日のことでした。できるだけ感染のリスクを避けるため自家用車で行くことにしましたが、インターネットで予約すると簡単にキャビンもとれて、しかも 20%引きでした。

出港の 1 時間前に六甲アイランドのフェリーターミナルに到着すると、「せっつ」が停泊していました。駐車場に止まっていた乗用車は、わずか 6 台でした。

ターミナルではまず体温測定があって、OK がでるとチェックインできるようになっていました。17 時半には車の乗船が始まりました。上部のトラック甲板には、8 台の乗用車だけが駐車する状態で、1 月に下関での「やまと」の進水式を見るために泉大津から乗船した時には、満杯の大型トラックの隙間に駐車しましたので、まさに雲泥の差でした。

船は 18 時半に出港。隣には「さんふらわあごーるど」が停泊していました。予約した部屋はデラックスの 2 人部屋でバリアフリー仕様でした。まだバリアフリーは必要なかったのですが、インターネット予約であまりよく見ていなかったようです。まあ、将来の予行演習となりました。

夕食は 18 時半からで、レストランは、セルフサービスで好きな料理の皿をとる方式ですが、1 つ 1 つの皿がラップでしっかりとカバーされていました。もちろん、レストランの前にはアルコール消毒液が用意されています。コロナ対策は万全です。

この日の乗客はわすが 24 人で、乗組員の方が多い状態でしたが、料理の品数はたくさんありました。

夕食後は大浴場へ。露天風呂から見るライトアップされた明石海峡大橋は最高でした。

部屋では BS 放送がしっかりと入っていて、映画をみてから就寝。コトコトという小刻みのエンジンからの振動が、心地の良い眠りを誘ってくれました。

翌朝は 7 時入港なので、5 時から最上階にスタンバイしてシップウォッチング。期待していた船首の展望ラウンジは、コロナウィルス対策で閉まっていましたが、最上階の浴室の横のスペースからの展望はよく、関門海峡を抜ける貨物船と何隻も出会いました。

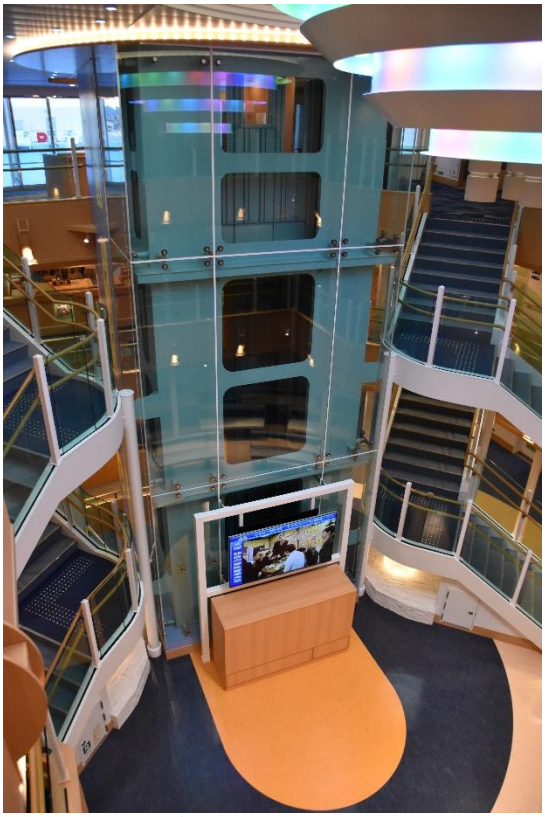
新門司港に入る直前には、RORO 船「ぶぜん」と、東京・徳島航路の「フェリーどうご」が沖泊しているのが遠望でき、港内には「フェリーきょうとII」と「いずみ」の姿がありました。

下船後は、停泊する「せっつ」と「いずみ」を撮影してから、佐賀関に移動して、国道九四フェリーの「遥なぎ」に乗船して四国にわたり、八幡浜、松山、観音寺等でフェリーを追いかけながら陸路帰阪しました。

体温測定した後でチェックイン。部屋のカードキーを受け取りました。

広い車両甲板に乗用車が 6 台駐車していました。下の車両甲板にはトラックが 10 数台乗っていました。

隣には「さんふらわあごーるど」が出港準備中でした。


3 層吹抜けのロビーにはお洒落なエレベーターがあり、一番下がテレビスペースと、案内所、売店があり、2 層目にレストラン、一番上には展望風呂があります。

ロビーの一番下の階には、大型テレビを設置されたスペースがありました。

レストランは 18 時半からオープンしました。

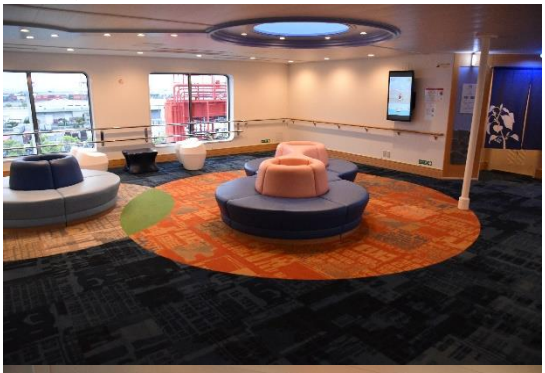
たくさんの料理の中からチョイス!!

この日の夕食です。

窓の外を眺めながら夕食は、クルーズ気分です。

神戸沖の夕焼けがとても奇麗でした。

最上層には阪九フェリーの歴代船の写真が飾られています。



船内はなかなかお洒落!!

朝日に輝く「せっつ」の煙突です。

翌朝、苅田沖にRORO船「ぶぜん」を遠望できました。

新門司の港内には、名門大洋フェリーの「フェリーきょうとⅡ」が停泊していました。

阪九フェリーの岸壁には、泉大津航路の「いずみ」が先着していました。

「せっつ」(手前)と「いずみ」が並んで停泊しました。